

平成24年度 山口県立萩商工高等学校 学校評価書

1 学校教育目標	教育目標……○各学科が、専門分野を生かした系統的な学習を充実し、各分野のスペシャリストとして必要な知識・技術を習得させる。 ○未来の社会を主体的に力強く生き抜く人材を育てるため、豊かな人間性をはぐくむとともに、生徒一人ひとりの個性を生かして、その能力を十分に伸ばすキャリア教育を行う。 中・長期目標…①生産から流通、消費まで、全体を見通して柔軟な発想ができる将来のスペシャリストの育成 ②地元企業等と連携した、より実践的な専門教育を推進し地域の産業振興に貢献できる人材の育成 ③自ら学び自ら考える人間性豊かな職業人・社会人の育成
-----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	①親師会活動は多くの行事を実施しているが昨年度は国体の関係もあって球技大会が実施できなかった。保護者との信頼関係構築の一助として開催していきたい。 ②昨年度から朝読を始めた。生徒、教員の反応は概ね良好で、一時間目を落ち着いた雰囲気を取り組めるようになった。 ③教科指導はどの教員も熱心に行っている。しかし、学校アンケートの結果を見ても、「教員は熱心に指導している」という回答が多いが「家庭学習はほとんどしていない」と回答する生徒が多く、学習習慣の確立を図る必要がある。 ④資格取得は積極的に取り組んでいるが、商業科に比べて工業科の成果が今一歩である。 ⑤生徒は比較的落ち着いた態度で学校生活を送っているが、一部服装、頭髪、生活態度等の乱れが気になるものがある。規範意識の醸成とともに、社会人としての基本である清楚な容姿を保つことを「当たり前にする」対策を引き続き行う必要がある。 ⑥精神的に不安定な生徒がいるが、早い段階で教育相談、スクールカウンセラー、担任が連携をとり対応できている。 ⑦生徒会の役員を中心として多くの生徒会活動を活発に実施することができている。部活動も各部とも熱心に練習に取り組み多くの部が、全国大会、中国大会に出場してきた。萩商業高校跡地の萩市移管に伴う、部活動の練習形態の変化に伴い、部活動の統廃合を含め生徒の活動に最善の方策を検討する。 ⑧キャリア教育全体計画を基に、早い段階から、ガイダンス、進路講話、インターンシップ等を実施した。商業科は100%インターンシップに参加しているが、来年度に向け工業科も100%参加をすすめる方向で進路指導部を軸に進めていく必要がある。 ⑨学校保健安全委員会、保健室を中心として、生徒、教職員の健康指導を実施されている。インフルエンザの集団発生にも迅速に対応できている。また、体育祭、マラソン大会、クリスマス等の体育的行事も大々だが、事故もなく実施されている。体育施設が老朽化している部分があるので事故がないように改善することが必要である。 ⑩環境整備活動は生徒会、JRCを中心に進められている。掃除が徹底しない区域があったが、終礼の実施により全生徒、教職員の整備・善悪意識を一層進めていきたい。 ⑪学校の情報発信は、HP、メーリングリスト、分掌だより、科通信等をおして効果的にできている。昨年度の保護者アンケートでは60%以上が「できている」という評価であったが、生徒アンケートでは45%だったので、さらなる発信が必要である。メーリングリストの登録率も100%に達するよう普及させていきたい。 ⑫業務改善では会議の開催を精選するとともに軽微な議題は、朝礼伝達票を改善することにより効率化を図った朝礼時に協議している。年休の取得は多くの教員が授業、部活動指導等で忙しく、なかなか取得できないのが現状である。 ⑬教職員の定期健康診断で再検査の受診率が低いので改善する必要がある。 ⑭終礼の実施により、きめの細かい生徒指導や学習指導が達成できるよう全教職員で取り組んでいきたい。
-------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	平成24年度チャレンジ目標… ①時を守り自らの行動に責任を持つ ②身だしなみを整える ③明るいあいさつをする、返事をする ④進んで掃除をする ⑤朝読にこそしむ 【学習指導】昨年度から導入した朝の読書は、一定の効果があった。今年度もクラス文庫の充実やクラス指導の充実等により継続して実施。また学校アンケートの結果から家庭学習の習慣がないことが明確になったので、学習習慣の確立の方策を検討していく。 【生徒指導】自転車通学のマナーの改善を重点に、自転車点検や交通安全指導等で重点的に指導していく。頭髪服装の乱れが目立つので今後とも粘り強く指導する。 【進路指導】就職指導の充実は無難なこと、国立大進学を目指した進学指導を図る。工業科1年生全員がインターンシップ参加できるよう校内協議を進め、協力企業の開拓をしていく。 【保健体育】校医と連携をとりながら生徒・教職員の健康増進、安全確保に取り組む。また性に関する教育の充実・継続を図る。 【特別活動】生徒会活動を中心として生徒の自主性、自立性を養い、また、部活動の再編の検討を進めていく。昨年度、実施できなかった、地域住民、保護者、生徒との話し合いを実施し情報交換をする。 【環境整備】教員・生徒が共通して環境美化への認識を高め、清掃活動に取り組む。 【情報発信】HPをリニューアルし迅速で正確な情報発信をするとともに、情報が的確に届くよう、メーリングリストの登録率100%を目指す。 【業務全般】校務のスリム化を図り、ゆとりのある教育活動を推進する。
-------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務	1 学校行事の適切な計画、調整、運営。	・行事計画・運営をし、関係者との調整を図り、事前の準備を徹底させる。 また事後、改善へ向け検討を行う。	4: 事前の準備と事後の改善が平反ができ、適切な行事運営ができた。 3: 事前の準備と事後の改善ができ、ほぼ適切な行事運営ができた。 2: 事前の準備と事後の改善はできなかったが、行事運営はできた。 1: 事前の準備、事後の改善、行事運営ともに適切でなかった。	3	○事前の準備については改善ができ適切な運営ができたように思われる。関係者との調整もできた。 ○来年度に向けて親師会役員や教職員との検討も行われて、改善に向けて検討も行われりスムーズに運営できように取り組んでいる。	○開かれた学校作りの中で「学校開放」「授業公開」等親師会や地域に向けて、いろいろ取り組まれていることはよく理解できた。しかしながら、早めの連絡等ももっと参加人数を増やす取り組みが必要と思われる。行きたくてもひとりでは参加しづらい面がある。また、授業公開に関しては教室の窓等をオープンにするなど、見やすくして欲しい。 ○北浦唯一の商・工の専門学校として魅力ある取り組みをして欲しい。	B
	2 親師会活動の活性化。	・総会を含め親師会行事の参加率を高めるように、様々な機会を使って保護者に働きかける。	4: 親師会行事に七割以上の参加をいただいた。 3: 親師会行事に五割以上の参加をいただいた。 2: 親師会行事に三割以上の参加をいただいた。 1: 親師会行事にあまり参加していただかなかった。	2	○総会の出席率は思う程参加していただかなかった。今年度の総会は運営を改善し、総会の内容を見直しをして多くの方に参加していただけるよう取り組んだが保護者の方に内容の変更が浸透していないようなので、引き続き継続して行きたい。		
	3 親師会活動の見直し	・今年度事業の見直しについて取組を行う。	2: 見直しできた。 1: 見直しできなかった。		2	○今年度は、地区懇談会の見直しについて取り組むことができた。	
教務	1 基礎学力の定着と学習意欲の向上	・朝読書の定着をはかり、朝学との連携も図る。また、資格や検定の合格者を増やす。 ・家庭学習の習慣の確立の方策を検討する。	①朝読書の実施回数 ②検定や資格試験の受験者数・合格率を近年と比較 4: ①、②とも良好。 3: ①、②のどちらかが良好。 2: ①、②とも同年程度。 1: ①、②とも不十分。 ①家庭学習時間の調査 ②方策の検討 3: ①、②ともできた 2: ①のみできた 1: どちらもできなかった	3	○先生方の補習等のおかげにより資格・検定の合格率があがった。 ○アンケートにもあるように、学習習慣の定着に向け、頑張っていたことも大事だが、特色を出すために文武両立に努められたい。		B
	2 人間関係形成能力や社会性を育成する指導	・学校生活になじめない生徒を把握するための調査を学期に1回程度実施し、該当者がある場合は担任・関係部署と連携して対応策を講じる。 ・挨拶、校門での一礼ができるように、生徒会、風紀委員会と連携して毎学期、挨拶月間を設定する。 ・自転車交通事故の減少と自転車交通マナーを改善するため自転車点検や交通安全指導等を実施する。	4: 風紀委員会と連携して挨拶月間を設定し、十分な成果があった。 3: 風紀委員会と連携して挨拶月間を設定し、ある程度成果があった。 2: 風紀委員会と連携したが、あまり生徒に受け入れられなかった。 1: 風紀委員会との連携がとれず、また、生徒の挨拶もできていない。 4: 自転車点検・交通安全指導を行い、十分な成果があった。 3: 自転車点検・交通安全指導を行い、ある程度成果があった。 2: 自転車点検・交通安全指導を行ったが、事故やマナーの向上につながらなかった。 1: 自転車点検・交通安全指導を行う機会がなく、事故やマナーの向上につながらなかった。	3	○1、2学期末に各クラス被害調査を実施。いじめや盗難被害等の実態調査と把握に努め、未然防止並びに早期解決に向けた取り組みを全教職員で実施した。教育相談活動の充実を図るとともに、中高の連絡・連携を通じた中途退学防止に向けた取り組みを展開した。今後3学期に1回の実施を予定している。年間3回を予定し生徒把握に努めたい。 ○校門での立哨指導を毎日実施。生徒会と連携し、生徒自らが参加することであいさつや一礼の取付、欠席・遅刻の減少、頭髪服装等の身だしなみに効果があった。また、生徒の自主自律の意識が高揚し波及効果も見られる。ただ、規律ある学校生活の確立において、人間形成・社会性の育成という目標が完全に達成されたとはいえないことから、立哨指導等を通じて引き続き欠席・遅刻の減少、身だしなみ・礼儀の指導に生徒と一緒に取り組んでいく必要がある。 ○交通委員が毎日駐輪場に立つて自転車点検、駐輪場のためかたのマナー指導を行った。自転車整備、駐輪場のためかたについては成果があったが学校外の交通マナー・規範意識についてはまだまだ改善が必要である。冬休み休業中に交通事故も起こっており生徒自らが命にかかわる問題として意識を変える必要がある。今後、全校集会等により規範意識を高め、自らが自分、他人の命を守り、自転車交通事故が0になるように指導していきたい。	○大きく高く次元の高い位置から考えて生徒の指導をしていただきたい。 ○歴史ある萩の地で(将来の日本の宝である)人材教育をして欲しい。 ○自転車等交通マナーについては、その都度指導するが、ここの命に関わる大事な事なので時宜に応じた指導を心がけていただきたい。	B
特活	1 全校生徒による主体的意欲的な活動の実現。	毎月行われる全校集会で、委員長のリーダーシップのもと、生徒による自主的な整列を実現する。	3: 全校集会において、生徒会役員、委員長のリーダーシップによる規律正しい整列ができた。 2: 全校集会において、生徒会役員、委員長のリーダーシップによる規律正しい整列がほぼできた。 1: 全校集会において、生徒会役員、委員長のリーダーシップによる規律正しい整列ができなかった。	2	○全校集会において、各クラス委員長の統率力が発揮されないのである。生徒会役員においても全校生徒に対して効果的な指示が行われていない。生徒による自主的な整列の実現に向け、特別活動部での検討が必要である。		
	各種学校行事で、全校生徒自らが主体的に活動できるように促す	1: 学校行事が実施されるまでに、全校生徒の意見や考えを生徒会できとまと、行事に反映させた。 2: 学校行事が実施されるまでに、全校生徒の意見や考えを生徒会できとまと、行事に反映させることができなかった。	1: 学校行事が実施されるまでに、全校生徒の意見や考えを生徒会できとまと、行事に反映させることができなかった。	2	○アンケート結果をもとに生徒会全員で学校行事について話し合い、各行事に反映させた。特に、文化祭においては生徒会の企画を全校生徒に理解させ、文化祭成功のために貢献した。		B

	2 地域社会との連携による学校生活の改善。	学校生活や地域への貢献を議題にした話し合いを学校PTA、地域自治会長、クラス代表、生徒会で構成して実施する。	3: 学校PTA、地域自治会長、クラス代表、生徒会で構成した会議を年2回以上実施した。 2: 学校PTA、地域自治会長、クラス代表、生徒会で構成した会議を年1回実施した。 1: 学校PTA、地域自治会長、クラス代表、生徒会で構成した会議を実施できなかった。	1	○実施諸準備に時間と組織的取り組みが必要であり、今年度開催は不可能であった。来年度に向けて、地域の事情をよく把握して調整是非実施するようしたい。	○ボランティア活動に関して、市民から「裁縫工いいね」と思っていたけるような取り組みを検討して欲しい。	
保体	生徒自らが健康・安全に生きていくことが自覚でき生涯にわたって実践できる能力の育成を目指す。	・性教育の講演会を実施する。 ・保健の授業で性に関する項目について重点的に指導する	4: ほぼ8割の生徒が正しい認識による性についての理解が深まった。 3: ほぼ6割の生徒が正しい認識による性についての理解が深まった。 2: 半数の生徒が正しい認識による性についての理解が得られなかった。 1: ほとんどの生徒が正しい認識による性についての理解が得られなかった。	3	○講演会を実施し性に関する関心を高める努力を行い、半数以上の生徒が理解を示してくれたが、性の大切さに関心のない生徒もみられ今後の検討課題にあげておきたい。	○授業のみならず、部活動等を含めて健康な心身を育成していただき感謝している。社会人となっても通用する体力育成に今後も取り組んでいただきたい。	A
		・3年生の麻疹の予防接種を促すため親師会総会、保護者会、全校集会などで積極的に呼びかけられる。 ・保健の授業との連携を図りプリント配布により指導を行う。	4: 麻疹の予防接種率が95%以上であった。 3: 麻疹の予防接種率が80%以上であった。 2: 麻疹の予防接種率が50%以上であった。 1: 麻疹の予防接種率が30%未満であった。	3	○学校保健委員会でも検討され保護者に対する文書を配布し全員摂取を促していきたい。		
		・生徒の学校生活の健康・安全を守るために、委員会活動を通して生徒が自主的な活動に取り組みが等の緊急時に適切に対応できるように、一人一人が環境衛生や健康面の自己管理ができるようにする。	4: 委員会活動等を通して生徒が安全や環境衛生に関して自主的な活動に取り組んだ結果、学校全体の意識も高まり効果が上がった。 3: 委員会活動等を通して生徒が安全や環境衛生に関して自主的な活動に取り組んだが、学校全体の意識の啓発に努めることが不十分であった。 2: 委員会活動等を通して生徒が安全や環境衛生に関して自主的な活動に取り組むことが不十分であった。 1: 委員会活動等を通して生徒が安全や環境衛生に関して自主的な活動に取り組むことができなかった。	3	○委員会活動を通して生徒の意識を高めることに努力してきた。ただ、不慣れな生活を行う生徒もみられ今後の指導においてさらなる努力をしていきたい。		
整備	準備で掃除をし、校内の美化に努める。	・掃除を時間内いっぱい行うように指導監督を徹底する。	4: 全員が時間内いっぱい掃除をした。 3: ほとんどの生徒が時間内いっぱい掃除をした。 2: 3分の1の生徒が時間内に掃除を終了している。 1: 半分の生徒が時間内に掃除を終了している。	3	○終礼を導入したことにより、全員がほぼ時間いっぱい掃除に取り組むようになった。掃除の取りかかりを早めることが今後の課題である。	○新しい校舎で常によく整備されており、好感が持てる。	B
進路	1 学校教育全体を通して、生徒一人ひとりのキャリア発達を促し、人生観・職業観・勤労観の育成を図り、社会人として適応できる能力を身に付けさせる。 2 生徒自らがそれぞれの人生を設計し、主体的な進路選択能力を身に付けさせる。 ・進路希望者に必要な学校情報や入試情報を提供し、進学準備のための指導・助言を行う。	・個々の生徒の進路希望について、進路指導部、外部カウンセラー、学科・学年・担任の連携のもと、面接・相談を行う。	4: 全学年・全員に進路面接・相談を実施することができた。 3: 全学年についてほぼ進路面接・相談を実施することができた。 2: あまり進路面接・相談を実施することができなかった。 1: 全く進路面接・相談を実施することができなかった。	3	○3年生に対しては、クラス担任、科長を中心に各担当教員も加わり大変良くできていたと思う。 ○1・2年生については、クラス担任任せのところがああり、十分に把握できていない。今後は学期末の保護者会に合わせて生徒同伴で実施する、面談週間を設定するなどふうしたい。	○夏の親師会・同窓会協力の面接指導は大変よかった。来年度以降も続けて欲しい。 ○卒業生に対して、早期離職・退職を防ぐ取り組みとして、相談体制の充実を図っていただけではないか。	A
		・生徒が主体的に進路を選択・決定するための能力を育成するため、必要な進路情報の提供を行う。	4: 学期1回以上の進路だより等を発行し、生徒に情報提供が十分できた。 3: 学期1回の進路だより等を発行し、生徒に情報提供ができた。 2: 学期1回以下の進路だより等の発行で、生徒に情報提供が十分にできなかった。 1: 1回も進路だより等を発行できなかった。	3	○学年ごとの進路ガイダンス、進路体験発表、各種進路適性検査等の進路行事を計画・実施し、生徒の成長・発達段階に合わせた情報提供やきっかけづくりができた。 ○必要に応じて「進路だより」等の情報提供を生徒・保護者に行った。		
		・進路希望者に必要な学校情報や入試情報を提供し、進学準備のための指導・助言を行う。	4: 該当生徒全員に情報提供を行い、指導・助言ができた。 3: 該当生徒についてはほぼ全員に情報提供を行い、指導・助言ができた。 2: あまり情報提供や指導・助言ができなかった。 1: 全く情報提供や指導・助言ができなかった。	4	○担任や進学担当を中心に該当生徒に対して十分な情報提供や指導ができています。 ○学年ごとの進路ガイダンスを計画・実施し、当該学年で必要な情報提供ができた。		
		・商業科の新たな取り組みとして①手帳の導入とつけ方の指導②授業開始時の身だしなみチェック③面接マナーの統一④考え・表現させる機会を増やす。	4: 左記の4つの取り組みすべてを行い、その後の検討をすることができた。 3: 左記の4つの取り組みを行った。 2: 左記のうち1つ以上取り組みすることができた。 1: 左記の取り組みをすることができなかった。	4	○取り組みはすべて行い、手帳の導入や面接マナーの統一などは一定の成果はあったと思われる。身だしなみチェックや考え・表現させる機会を増やしたことの成果は顕著には現れていない。今後、継続的に指導を続け、高校在学中の3年間のスパンで成果をみていきたい。		
商業	1 面接試験に強い生徒を育成する	・商業科の新たな取り組みとして①手帳の導入とつけ方の指導②授業開始時の身だしなみチェック③面接マナーの統一④考え・表現させる機会を増やす。	4: 左記の4つの取り組みすべてを行い、その後の検討をすることができた。 3: 左記の4つの取り組みを行った。 2: 左記のうち1つ以上取り組みすることができた。 1: 左記の取り組みをすることができなかった。	4	○取り組みはすべて行い、手帳の導入や面接マナーの統一などは一定の成果はあったと思われる。身だしなみチェックや考え・表現させる機会を増やしたことの成果は顕著には現れていない。今後、継続的に指導を続け、高校在学中の3年間のスパンで成果をみていきたい。	○課題研究については、地元に着き取り組みであり、評価できる。	A
	2 中学校との連携協力関係の構築	課題研究発表会、中学生2年生を対象に開放講座を3年生を対象に体験入学を実施する。	4: 課題研究発表会、中学生対象の開放講座を実施し、新たに中学校との連携協力関係を構築するための方策を実施することができた。 3: 課題研究発表会、中学生対象の開放講座を実施することができた。 2: 課題研究発表会を実施することができた。 1: 中学校との連携協力関係の構築をすることができなかった。	3	○体験入学は8月18日に実施、参加者198名、商業科体験講座は11月17日に実施、情報デザイン講座に生徒16名、保護者2名の計18名、総合ビジネス講座に生徒11名が参加、課題研究発表会は2月14日に実施予定。		
機械	1 就職・進学を目標とした教育活動の充実。	・各学年に対する個別の面接指導を実施する。	4: 各学年に年間2回程度の面接指導を実施し、意識を十分高めることができた。 3: 各学年に年間1回程度の面接指導を行い、意識を高めることができた。 2: 一部の学年しか面接指導を実施できなかった。 1: どの学年についても面接指導を実施できなかった。	2	○3年生、2年生に対しては、面接指導を実施したが、1年生に対しては実施できなかった。	○資格取得に頑張っていたいただきたい。	
	2 技能検定をはじめとして、各種の資格の取得に積極的に取り組む。	・課題研究のテーマとして取り上げ、できるだけ多くの生徒に資格を取得させる。	4: 課題研究のテーマとして取り上げ、ほとんどの生徒が資格を取得した。 3: 課題研究のテーマとして取り上げ、半数以上の生徒が資格を取得した。 2: 課題研究のテーマとして取り上げ、一部に生徒が資格を取得した。 1: 課題研究のテーマとして取り上げたが、誰も資格を取得することが出来なかった。	3	○3種類の技能検定に取り組み、それなりの成果をあげることが出来た。		
電気	1 電気機器、電力、電子、情報、制御、通信といった広範囲の電気分野について幅広く基礎的・基本的知識と技能を習得させる。	・授業の充実のために各学期に1回以上教科部会を開いて検討する。	4: 各学期に1回以上実施し検討することができた。 3: 年間2回実施し検討することができた。 2: 年間1回しか実施し検討することができなかった。 1: 実施できなかった。	3	○次年度の実習内容については方向性が出てきた。今年度の学力低下に伴った学力向上のための対策を検討したが、従来の指導方法を踏襲する案になってしまい、具体策もない。今の現状では教員個人の奮闘に託されている。今後、科として取り組むことを検討していきたい。	○特になし。	
	2 知識や技術を活用する能力の育成を目指して、検定や資格の取得に取り組みさせ専門に対する興味関心を持たせる。	・一人1資格の取得を実現するよう、個に応じたきめ細かな指導を行う。	4: 指導の結果、大部分の生徒が取得できた。 3: 指導の結果、かなりの生徒が取得できた。 2: あまり取得できなかった。 1: ほとんど取得できなかった。	3	○今年度より朝補習(第2種電気工事士、乙4類危険物取扱者)を行い、資格の合格率は少しであるが上向している。しかし、朝補習に参加しない生徒もおり、補習参加の定着を図る必要がある。		B

建設工学	1 建設に対する興味を深め、自己の能力や適性に合った進路選択ができるように支援する。	・現場見学・講話等の体験を通して、1年次より興味関心を持たせ、自己の適性に合ったコース・進路選択を行う。	4: 現場見学・視聴覚教材を用いた講話等により興味関心を持たせることが十分にできた。 3: 現場見学・視聴覚教材を用いた講話等により興味関心を持たせることがほぼできた。 2: 現場見学・視聴覚教材を用いた講話等が十分に実施できなかった。 1: 現場見学・視聴覚教材を用いた講話等が実施できなかった。	○県土木事務所と教務所との交流を密にでき、見学できた。ハードな催しではあるが、生徒の姿勢もよく、建設業に対する理解を深めた。2、3年は見学に興味関心が高く、非常に効果がある。2学期は2年度見学をした。事前準備にも時間を費やし、充実した。1年は現場の資料・写真を文化祭や日常授業などに利用でき、充実度は増している。	○地域に密着した取り組みは評価できる。	A
		・建設工学科で、学期に1回は公開授業を実施する。 ・出前授業を積極的に行う。	2: ほぼ予定どおり実施できた。 1: あまり実施できなかった。	○実習製図CAD関係の授業はすべて公開授業。いつ誰が見学しても問題なし。出前授業は昨年同様。建築系は問題なし。土木系の魅力を中学生に訴えるべき。体験入学では土木3年と教員3名で、中学校教員・父兄・生徒に魅力を多く語っている。出前授業も3回行った。		
1年	2 基礎的知識・技術を学習し、一人1資格以上の取得を目指す。	・補習等により個々に応じたきめ細かな指導を行い、意識の向上を図る。 さらに、各種コンテストへの参加に努めさせる。	4: 65%以上の生徒が資格を取得した。 3: 55%以上の生徒が資格を取得した。 2: 50%以上の生徒が資格を取得した。 1: 50%未満の資格取得にとどまった。	○一人1資格の取得を目指すための生徒の意欲が問題であり、教員間は、共通理解を深め、補習等の体制づくりはできている。1学期については一人1資格以上の取得は2学期でほぼできる予定。2、3学期は昨年同様だが、土補8人合格・測量競技中国3連覇など今年前半で、日常の努力が報われている。製図コンテストも例年通り成果を挙げている。	○多様な生徒に対して、様々な取り組みがされている。	B
		・年9回以上の学年会と年3回以上の拡大学年会を開催し、常に生徒情報の共有化を図り、必要に応じて指導の方向性の修正及び確認を行いつつ指導にあたる。	4: 生徒の状況と問題を把握し、支援することが十分達成できた。 3: 生徒の状況と問題を把握し、支援することがほぼ達成できた。 2: 生徒の状況と問題を把握し、支援することがあまりできなかった。 1: 生徒の状況と問題を把握し、支援することができなかった。	○9回以上の学年会と年3回以上の拡大学年会を開催し、そこで出た情報は、管理職、生徒指導部長および各科長に出し共有化を図った。毎学期、1学年の活動及び生徒状況について教員対象のアンケートを実施し、指導の方向性の修正及び確認を行いつつ指導にあたることのできた。3学期当初に予定していた進路情報の提供およびそれに伴う指導が遅れたため、今後、進路希望情報等の収集をしていく。		
1年	2 基礎学力向上のための指導を充実させ、基礎的資格を取得させる。	・時を守り、身だしなみを整え、挨拶、返事ができるようにする。 ・学年目標を毎月立て、学年共通で指導にあたる。 ・年10回以上学年通信を発行する。 ・生徒及び教員向けのアンケートを実施し、振り返りに活用する。	3: 多くの生徒及び教員が1学年は、時を守り、身だしなみを整え、挨拶、返事ができていると感じている。 2: 半数近くの生徒及び教員が1学年は、時を守り、身だしなみを整え、挨拶、返事ができていると感じている。 1: 多くの生徒及び教員が1学年は、時を守り、身だしなみを整え、挨拶、返事ができていないと感じている。	○各学期に工夫を凝らした学年集會を実施し、身だしなみや挨拶、学習態度についての指導を行ってきた。また、生徒自身の意識を高めるために、学校・HRへの帰属意識を醸成する必要があると考え、1学期に遠足を実施、3学期には来年度の1年生対象のオリエンテーション実施に向けての取り組みを行った。これらの活動は、毎月発行の学年便りを通じて、保護者および教員に伝えられ、様々な場面で生徒自身の成長を振り返ることができた。	○来年度学校行事の中心となって元気の源になって欲しい。	B
		・学習習慣を身につけさせるとともに、1学年で受検可能な資格を計画的な指導により取得させる。 ・検定試験週間は、朝学や補習での学習を充実させ、きめ細かい指導を実施する。	4: 学習習慣が定着し、1年間で90%以上の生徒が資格を取得した。 3: 学習習慣が定着し、1年間で70%以上の生徒が資格を取得した。 2: 学習習慣がほぼ定着し、1年間で50%以上の生徒が資格を取得した。 1: 学習習慣が定着せず、1年間で50%未満の生徒が資格を取得した。	○商業科では、検定週間の開始にあたって、集會を実施、生活面を含め指導を行った。また毎月学年目標を作り、その中で授業態度の向上を盛り込み、基礎学力向上への意識付けを行った。90%以上の生徒が資格・検定に合格出来たが、日常の学習習慣が欠けている生徒がいるので今後も継続して指導していきたい。		
2年	1 進路を見据えた上で、学校の中心学年としての自覚を持ち、高校生活に対し、意欲的に取り組む姿勢を育てる。	・個人面談と保護者会等の実施により学習面・生活面等についてきめ細かな指導を行うと同時に、進路希望状況を把握し、適切なアドバイスをする。	4: 生徒の状況と問題を把握し、支援することが十分達成できた。 3: 生徒の状況と問題を把握し、支援することがほぼ達成できた。 2: 生徒の状況と問題を把握し、支援することがあまりできなかった。 1: 生徒の状況と問題を把握し、支援することができなかった。	○日々のHR活動や生徒個人面談(随時)、保護者懇談会(1学期親師会総会の後、1学期末、2学期末)を行い適切に支援・指導を行った。	○来年度学校行事の中心となって元気の源になって欲しい。	B
		・修学旅行等の集団行動時の集合時間を守り回りに迷惑をかけないように指導を行う。	4: 100%時間を守れることができた。 3: ほぼ、時間を守れることができた。 2: 時間を守れないことがよくあった。 1: ほとんど時間が守れなかった。	○全校集會、学年行事等の集會は良いが、登校時の遅刻が多い特定の生徒がおり指導を行った。		
3年	生徒の希望・適性・能力に応じた進路指導を行う。	・生徒全員に複数回の進路面談・相談を行い、生徒の希望・適性を把握した上で、一人一人に適切な指導を行う。	4: 全員に2回以上、面談・相談を実施することができた。 3: 全員に1回は、面談・相談を実施することができなかった。 2: あまり面談・相談を実施することができなかった。 1: ほとんど面談・相談を実施することができなかった。	○全員に複数回の面談を実施することができ、生徒の希望や適性に合った指導が行えた。大変難しい求人状況ではあったが、各科・進路の協力も得ながら各担任が熱心に指導し、ほとんどの生徒の進路を決定することができた。今後残り少ないHRで、早期の離職や退学をしないような指導をしていきたい。	○進路指導等において、進路指導とよく連携され、生徒の進路実現に努力している。	A
		・生徒・保護者に対し、1学期中に進路資料を提供する。	4: 全員に資料が提供できた。 3: 希望者には、資料が提供できた。 2: あまり資料の提供ができなかった。 1: ほとんど資料の提供ができなかった。	○生徒・保護者が進路を考え、決定するために必要な資料や情報を全員に十分提供できたように思う。		
業務改善	学校の組織等	・各分掌業務内容を確認・協議し、業務削減、効率化を図る。 ・業務内容の整理と位置づけを行う。	4: 業務一覧を作成し、業務の見直し及び改善を図ることができた。 3: 業務一覧を作成し、業務見直しを検討することができた。 2: 業務一覧の作成にとどまった。 1: 業務一覧の調査をするにとどまった。	○各分掌における業務推進については適宜確認をしながらルーティン業務のみに終わることの内容、精選をしながら見直しをしているが、業務の削減、効率化について可能な限り今後も取り組んで参りたい。	○プロの教育者として先生方が子供たちのよりよい成長には欠かすことのない存在である。今後とも健康に留意され指導力を存分に発揮していただけるよう期待している。	B
	校務分掌の業務削減と効率化					
	日常的な業務	・職員会議にて協議すべき事項を明確にする。伝達事項、報告事項は職員朝礼で行う。会議の回数を減らす。	4: すべての会議等が勤務時間内に終了した。 3: ほとんどの会議が勤務時間内に終了した。 2: 職員朝礼は時間内に終わったが、職員会議は勤務時間を超えることが多かった。 1: 職員朝礼、職員会議ともに時間を超えることが多かった。	○喫煙の課題については、関係部署との十分な事前協議のもと、全体会議までに方向性を持たせよう努力し、効率のいい会議の進め方が実践できた。また、会議時間の短縮についても概ね勤務時間内に終了することが出来た。しかし、生徒たちのために絶対的に必要な会議については、全教員で熱意を持って取り組んでおり、時間オーバーの会議については、回復措置の適切な実施に心がけた。		
	各種会議時間の短縮と効率化					
	勤務状況	・年休や代休の効果的な取得を呼びかける。 ・業務時間記録表をもとに健康管理を呼びかける。 ・ゆとりある職場環境づくりに努める。	4: 教職員の8割以上が、年休取得率50%以上であった。 3: 教職員の6割以上が、年休取得率50%以上であった。 2: 教職員の4割以上が、年休取得率50%以上であった。 1: 教職員の2割以上が、年休取得率50%以上であった。	○土日に大会参加引率等で勤務する教員が多い中、業務多忙化により平日の勤務時間外にも業務延長となる教員が多い。年休取得も長期休業中を中心に取得に努めているがまだまだ難しい面が多々ある。今後は、業務時間記録表を最大限活用し、教職員の健康維持や年休等の取りやすい環境作りを推進して参りたい。		
年休取得の促進						

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

- ①学校行事については、事前の準備について改善ができ、適切な運営ができた。来年度に向けて親師会役員や教職員との検討も行われて、改善に向けて検討も行われよりスムーズに運営できようになった。
- ②親師会総会の出席率については運営を改善し、総会の内容を見直しをして多くの方に参加していただけるように取り組んだが保護者の方に内容の変更が浸透していかないようなので、引き続き継続して行きたい。
- ③資格・検定の合格率については、先生方の補習等のおかげにより向上している。家庭学習の定着に向け、アンケートの内容をよく検討し、学習習慣の定着を促して参りたい。
- ④生徒全員に3回にわたり被害調査を実施するなど、いじめや盗難被害等の実態調査と把握に努め、未然防止並びに早期解決に向けた取り組みを全教職員で実施し、効果を出している。教育相談活動の充実を図るとともに、中高の連絡・連携を通じた中途退学防止に向けた取り組みを展開した。
- ⑤校門での立哨指導を毎日実施。生徒会と連携し、生徒自らが参加することであいさつや一礼の励行、欠席・遅刻の減少、頭髪服装等の身だしなみに効果があがった。生徒の自主自律の意識が高揚し波及効果も見られる。
- ⑥規律ある学校生活の確立において、人間形成・社会性の育成という目標が完全に達成されたとはいえないことから、引き続き欠席・遅刻の減少、身だしなみ・礼儀の指導に生徒と一緒に取り組んでいく。
- ⑦自転車整備、駐輪場のとめかたについては成果があったが学校外の交通マナー、規範意識についてはまだまだ改善が必要である。休業中に交通事故も起こっており生徒自らが命にかかわる問題として意識する必要がある。
- ⑧全校集会における生徒会役員、各クラス委員長の統率力が発揮されていない。生徒による自主的な整列の実現に向け、特別活動部での検討が必要である。
- ⑨生徒会全員で学校行事について話し合い、各行事に反映させた。特に、文化祭においては生徒会の企画を全校生徒に理解させ、文化祭成功のために貢献した。
- ⑩性に関する講演会を実施し生徒の思春期における課題への関心を高める努力を行い、半数以上の生徒が理解を示してくれた。まだ関心のない生徒もみられ、今後の検討課題にあげておきたい。
- ⑪掃除に関しては、終礼を導入したことにより、全員がほぼ時間いっぱい掃除に取り組むようになった。掃除の取りかかりを早めることが今後の課題である。
- ⑫進路指導においては、学年ごとに進路ガイダンス、進路体験発表、各種進路適性検査等の進路行事を計画・実施し、生徒の成長・発達段階に合わせた情報提供やきっかけづくりができた。
- ⑬業務改善については、関係部署との十分な事前協議のもと、全体会議まで方向性を持たせるよう努力し、効率のいい会議の進め方が実践できた。また、会議時間の短縮についても概ね勤務時間内に終了することが出来た。

7 次年度への改善策

- 業務推進の要である教員の業務環境改善、健康の保持増進、働きやすい人間関係作り等、公平な分掌仕事の割り振り、学年・クラス運営の推進、時宜に応じた課題設定の確認等、全職員で課題意識を共有し、一つ一つの確実な業務推進を図りたい。
 - 北浦における専門学校の代表格として、新たな歴史と伝統を育んでいく姿勢が随所に見受けられ、今後とも各取り組みに真摯に向き合っていきたい。
 - 各学年での連携は取られているが、全体としての組織的なアピールをしていただき、教商工のステイタスを高めていきたい。
 - 厳しい社会情勢の中、子供たちの進路実現は喫緊の大きな課題であり、生徒・保護者・学校が地域と一体となって取り組み、地元定着(地元就職)を含めて進路指導に邁進していきたい。
- 【学習指導】
- 基礎学力の向上に向け、家庭学習をはじめとする学習習慣の定着を推進したい。
 - 学校アンケートにもあるように、保護者・生徒共通の認識として「家庭学習」への取り組みに大変大きな課題を抱えている生徒がおり、進路実現の大きな課題として捉え、関係各分掌と解決に向けた検討を進めて参りたい。
- 【生徒指導】
- 多様化する生徒の実態を的確に把握するため、担任、学年団、部活顧問等と情報を適宜共有し、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送ることが出来るよう、日々取り組んでいきたい。
 - いじめ問題、交通安全関係等、生徒の生命に関わる事柄について、時宜に応じて課題を整理し取り組んで参りたい。
- 【特別活動】
- 生徒会が中心となった取り組みをもっと進めるため、役員一人ひとりの能力を向上させ、充実した活動を促進する。
 - ボランティア活動の推進についても、アイデア出しから一つずつ検証し、新たな取り組みを進めて参りたい。
- 【進路指導】
- 生徒が主体的に進路を選択・決定するための能力を育成するため、今後とも必要な進路情報の提供を行う。
 - 工業科全員のインターンシップを定着させ、商工全体で一人ひとりの進路実現に向け、更に努力していきたい。
- 【保健体育】
- 委員会活動等を通して生徒の健康に対する意識を高めることに努力してきたが、不摂生な生活を行う生徒もみられ今後の指導においてさらなる努力をしていきたい。
- 【業務改善】
- 分掌における業務推進については適宜確認をしながらルーティン業務のみに終わることなく、内容、精選をしながら見直しをしているが、業務の削減、効率化について可能な限り今後も取り組み、校務のスリム化に取り組んでいきたい。